

高等学校家庭科における手芸の学習（第1報） — 我が国におけるスウェーデン刺繍の歴史と手芸の学習 —

なか だ いく こ
仲 田 郁 子

（本 学 教 授）

わか つき あつ み
若 月 温 美

（学習院大学大学院院生・東葉高等学校教諭）

1 研究の背景と目的

経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方（ウェルビーイング）が重視されてきている。家庭科は、生涯にわたる生活を学びの対象とする教科である。その目標は小学校・中学校では「（略）衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を（略）育成する」、高等学校では「（略）実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、（略）主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を（略）育成する」とされており、まさにウェルビーイングの向上に貢献することを目標に掲げた教科だと言える。子どもたちの生活経験の不足が言われて久しく、手先の不器用さなどの課題が指摘されているが、生徒は家庭科における実験・実習などの体験的な学びに意欲的に取り組んでいる。

しかし、高等学校においては家庭基礎（2単位）が多く採択されているため、広範にわたる学習内容に対して授業時数が不足しており、実践的・体験的な学習活動に十分に時間をかけることは難しい。一方で2008年告示の学習指導要領以降、家庭基礎では被服製作については言及がないにもかかわらず、多くの学校で基礎縫い実習は実施されている（山中・川端、2024）。生徒にとって必要な学習であると多くの教師が考えていることがうかがえるが、生活を豊かにするという視点からは、基礎縫いだけでは不十分と言えよう。先行研究では、家庭科の授業における学習経験があるほど、授業以外でも自主的に取り組む（堀内、1989）ことが示されており、生徒の興味関心や意欲を高める題材設定が重要である。衣生活領域において、生活を豊かにすることを目的とした題材としては、手芸が挙げられるだろう。

近年家庭科教材のカatalogにスウェーデン刺繍の教材が取り上げられるなど、特別支援学

校などの教育現場ではスウェーデン刺繍が再び注目されている様子がうかがえるが、その実践はほとんど報告されていない。

本研究は、生活をより豊かにし生涯にわたるウェルビーイングの向上を図る視点から、スウェーデン刺繍に注目してその教育的効果について考察し、高等学校家庭科における指導法や教材について提案することを最終的な目標とする。本報ではスウェーデン刺繍がどのような刺繍なのか、そして学校教育ではどのように扱われてきたのか明らかにすることを目的とする。

2 研究方法

2-1 分析対象

本研究では、1950年代から発行された国内外の手芸雑誌・書籍に注目して、スウェーデン刺繍に関する内容を調査し整理した。その上でスウェーデン刺繍を考案した久家道子氏について、現代を代表するスウェーデン刺繍作家である五十嵐富美氏に聞き取りを行い、スウェーデン刺繍の特徴および久家氏の来歴をまとめた。さらに同時代の高等学校学習指導要領における手芸学習の扱い方及び現代の学校での実践報告を調査し、それらの結果から総合的に考察を行った。なお本報告において、刺繍名の表記については「スウェーデン刺繍」を原則とするが、書名および本文等の引用については原文のままとし、「スエーデン」「ししゅう」「刺しゅう」等の表記を用いることもある。

3 結果と考察

3-1 日本で発行されたスウェーデン刺繍の雑誌・書籍

スウェーデン刺繍に関する雑誌・書籍を、書店、古書店を中心に探した。概要を表1に示す。1957年から1970年にかけて、次々と出版されていることがわかる。最近では、2016年からスウェーデン刺繍作家五十嵐富美氏による書籍が続けて刊行されている。

以下、表1より特徴的な書籍を2冊取り上げる。

ア スエーデン刺繍（1957 婦女界出版社）

我が国で最初に出版されたスウェーデン刺繍書である。作品とその作り方、模様刺しのページに続いて、巻末に「初めての方のために スエーデン刺繍の基礎」として以下のように記されている。



図1 スエーデン刺繍表紙

（下線は筆者による。以下同じ）

クロスステッチよりも歴史の古い、布目数え刺繍（counted thread embroidery）の一種で、スエーデンやユーゴ等、北欧から中欧にかけて発生した刺繍ですが、現在ではアメリカを中心に世界的流行の波に乗って、日本でも街に職場に家庭に、手芸愛好者の新しい人気の中心となっています。

ざっくりと織り出した布地に、太い糸で布目を数えながら、いろいろと配色を考えて刺すだけの簡単な手法ですが、裏に全然糸が出ないこと、何度洗濯しても模様が崩れないこと等の特長を持つと共に、他の刺繍に見られない布地と糸のかもし出す立体的陰影の美しさ、面白さ、多彩な色と布の表に盛り上がった糸の量感からくる豪華さなどが、現代女性のセンスにぴったり合っ
今日の流行になったといえましょう。

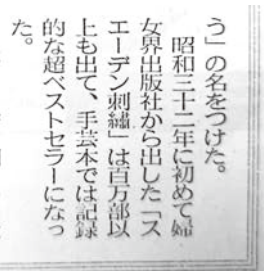


図2 東京新聞記事
(1992年9月5日)

下線部について、ヨーロッパで発生したとあるが、詳細には触れられていない。スウェーデン刺繍の特徴として、簡単であること、美しいこと、豪華であることなどが挙げられている。

同書は100万部を超えるベストセラーになったという記録が残っており（東京新聞、1992）、当時のスウェーデン刺繍の人氣がうかがわれる。取り上げられている作品例は、男性用女性用ともに、洋服、洋装小物、和服、和装小物、インテリアと多岐にわたる。

表1 日本で発行されたスウェーデン刺繍を取り上げた雑誌・書籍

	出版年	書名	著者	出版社
ア	1957	スエーデン刺繍	久家道子 南條悦子	婦人界出版社
イ	1957	スエーデン刺繍模様集	久家道子	婦人界出版社
ウ	1958	スエーデン刺繍基礎と応用 基礎と応用 手芸入門叢書No. 16	板垣文恵 小河方子	雄鶏社
エ	1958	手芸教室 26 スエーデン刺繍	雄鶏社編	雄鶏社
オ	1959	流行スエーデン刺繍	南條悦子 久家道子 他	婦人界出版社
カ	1959	刺繍のモチーフ		女性の友

キ	1959	手芸教室 29 スエーデン刺繍 2	尾崎千代子他	雄鶏社
ク	1960	新しいスエーデン刺繍	久家道子	雄鶏社
ケ	1960	NHKTV 婦人百科 3 フランス刺繍		日本放送出版協会
コ	1961	スエーデン刺繍	久家道子	日本ヴォーグ社
サ	1962	実用手芸パターンブック 11 スエーデン刺繍 久家道子作品集	久家道子	雄鶏社
シ	1963	ONDORI スエーデン刺繍	田中清子	雄鶏社
ス	1963	スエーデン刺しゅう ペーパーバック	久家道子	日本ヴォーグ社
セ	1964	美しい刺繍 5 布目刺繍 (スエーデン スーダン こぎん ゴブラン)	久家道子	講談社
ソ	1964	手芸カード 52 スエーデン刺しゅう	久家道子	日本ヴォーグ社
タ	1967	新スエーデン刺しゅう	久家道子	日本ヴォーグ社
チ	1967	美しい刺繍 6 スエーデン刺繍 7 刷	久家道子	講談社
ツ	1970	ONDORI ヤングシリーズ スエーデン刺繍	尾上雅乃他	雄鶏社
テ	1971	手芸の友 6 子どもと手芸	久家道子他	グラフ社
ト	1973	たのしい手芸 37 久家道子スウェーデン刺しゅう	久家道子	婦人画報社
ナ	1980	スウェーデン刺しゅう HUCKABACK EMBROIDERY	雄鶏社編	雄鶏社
ニ	1982	スエーデン刺繍作品と図案集	久家道子	日本ヴォーグ社
ヌ	2003	新装版スウェーデン刺しゅう	久家道子	日本ヴォーグ社
ネ	2016	スウェーデン刺しゅうの図案帖	五十嵐富美 久家道子監修	日本ヴォーグ社
ノ	2023	世界手芸紀行毛糸だま特別編集		日本ヴォーグ社
ハ	2024	スウェーデン刺しゅうハンドブック 配色が楽しい 130 の図案と基礎、楽 しみ方	五十嵐富美	日本ヴォーグ社
ヒ	2024	増補新版 スウェーデン刺しゅうの 図案帖 100	五十嵐富美 久家道子監修	グラフィック社

ト たのしい手芸 37 スウェーデン刺繍 (1973 婦人画報社)

本書は、上記アで示した最初のスウェーデン刺繍書の発行から 15 年が経ち、それまでの活動を 1 冊にまとめたものであり、特に詳細にスウェーデン刺繍についての久家氏の思いが述べられていると思われる。以下は表紙裏の前書き（抜粋）である。

今から18年前、私にとって素晴らしい国、スウェーデンの国をイメージとして「スウェーデン刺繍」と名付けて発表して以来、着実な歩みによる年を重ね、新しい素材とデザインによって作品と図案も数多く作ることが出来ました。その中から、このように選ばれた作品と図案によって、一冊の本にさせていただけたことは大きな感謝です。手作りのよさが世の中で大切な存在として認められてはきたものの、まだまだ手作りの味わいを自分の手で喜ぶことの出来ない人も多くおります。数多くある刺繍の中で、最も早く出来て、美しく仕上げることの出来るこのスウェーデン刺繍は、忙しくなった世の中にもマッチした手芸といえると思います。生活にゆとりがでてきた住まいのインテリアに、自分らしい個性ある手作りを生かせるのも、このような刺繍だと思います。色どり、図柄のバランスを考えて刺せば、楽しい作品が次々と生まれると思います。心豊かに、大勢の人と共によい作品を作りだしながら、よい社会を作りだしてゆくことを願い、今日も新しい作品とデザインを考えながら、心はずませております。

また、同書巻末の作り方解説ページには、以下が掲載されている。

布目を数えながらすくってゆく手法のこの刺繍は、古くから西欧で親しまれ、伝えられてきた。一九五六年に私は、はじめて「スウェーデン刺繍」という名をつけて、第一冊目を出版した。それまでは南米や北米で「ハックウィーヴィング」の名称で、ゲスタオルやエプロン類に軽い調子の刺繍で親しまれてきている。また、イギリスで出版された本では「ユーゴスラビアンダーニング」の名称がつけられている。このように世界中に親しまれている技法であるが、日本で出版するにあたり、ネーミングを考え、すべての点でデザイン活動にすぐれていた北欧の中から親しみ深い「スウェーデン」を刺繍名として名付けることに決めた。スウェーデンで生まれたものではないが、発表後、日本で育てられた刺繍といえる。当時の日本を考えると、戦後十年が過ぎ、そろそろ趣味としての手仕事を取り入れたい気持ちが、急激な流行となったのだと思う。若い人、子供、老人、だれにでもすぐ覚えられ、短時間で作り上げることのできる刺繍、立体的でモダンである等、早く皆の間に変えられる要素を多分に持っていたからであろう。時代や流行が年毎に変わるときでも、この時に合わせてデザインを自由に考えて刺すことができる楽しさを持っている。

アと同様にヨーロッパを発祥の地として、世界各地で取り組まれていること、スウェーデン発祥ではないが、久家氏が手仕事への思いからスウェーデンと命名したこと、そしてその手法が比較的容易であることが挙げられており、大流行の背景についても、時代背景に触れながら、久家氏なりの解釈が述べられている。取り上げられている作品は、アと同様であるが、海外ではタオルやナプキン類であると示され、我が国独特の発展の様子も触れられている。

上記ア、ト2冊以外の書籍についても、前書き等に記載されているスウェーデン刺繍についての説明はほぼ同様である。1970年以降はスウェーデン刺繍書の発行は減り、その後の同種書籍の発行は2016年、五十嵐富美氏によるものになる。



図3 スウェーデン刺繍表紙

3-2 久家道子氏の来歴と時代背景

スウェーデン刺繍の考案者である久家道子氏はどのような人物であったのか。久家道子氏の親族（義娘）でもあり、久家氏に師事し同刺繍の普及に尽力して来られた現代を代表するスウェーデン刺繍作家である五十嵐富美氏に聞き取り調査を行った。

- ・日時：2024年8月9日 10時30分より12時30分
- ・場所：アトリエ久家（東京都中野区）
- ・主要内容：①久家道子氏の来歴、②五十嵐富美氏の考える刺繍、③今後のスウェーデン刺繍の可能性

以上の結果から、久家氏の略歴をまとめると以下（表2）のようになる。久家氏は数々の書籍発行のみならず、1959年にはNHKラジオに出演してスウェーデン刺繍について講義を行うなど精力的に活動しており、当時スウェーデン刺繍がどれだけ注目されていたかがわかる。

表2 久家道子氏の略歴とスウェーデン刺繍

1930（昭和5）	大阪にて出生
1950（昭和25）	自由学園卒業 自由学園では、美術教育が充実し、一流の音楽家、芸術家による授業があり、後年の刺繍の仕事につながった
1951（昭和26）	卒業後、スウェーデン人宣教師夫人ヤンソン夫人のもとで料理や工芸を学ぶ
1951（昭和26）～ 1955（昭和30）	チリに赴任する公使の従者としてサンチアゴへ。そこで刺繍したタオルを知る（後のスウェーデン刺繍）

1955（昭和30）	帰国後、刺繍講師をすることになり、チリで知った刺繍を取り上げることにする
1956（昭和31）	専用のクロスや刺繍針の開発に取り組み、スウェーデン刺繍として発表
1959（昭和34）	NHK ラジオ女性百科でスウェーデン刺繍に出演
1975（昭和50）	バングラデシュ・タイの婦人自立支援
1979（昭和54）	中国に刺繍工場をつくる
1992（平成4）	スウェーデン刺しゅうの普及と指導に対して科学技術庁長官賞 受賞
2001（平成13）	(財)日本手芸普及協会 会長就任
2003（平成15）	秋の叙勲にて旭日双光章受章

1950年代後半は、敗戦の混乱期を経て、いわゆる高度経済成長が始まった時期にあたる。高度経済成長は、第1次産業から第3次産業への産業形態の変容をもたらし、その結果「仕事」の場である職場と「生活」の場である家庭が切り離され、仕事に出かける父親と家庭で家事・育児を担う母親という性別役割分業が定着した。

都市部で専業主婦となった女性たちは、ひとりで家庭生活を経営する中で、これまではなかった自分らしい生活空間を創造する意欲を持つようになり、このことが手芸ブームにつながったのであろう。中でも、新しく考案された「簡単で」「早くでき」「豪華さがある」スウェーデン刺繍が人気を博したのではないかと推測される。なお、この1950年代後半から1970年ころまでを、本報ではスウェーデン刺繍の「第1次ブーム」と呼ぶことにする。第2次ブームは教材カタログに掲載されるようになった2010年ころからとする。

3-3 高等学校家庭科の学習指導要領における手芸教育の位置づけ

第1次ブームの時代を中心に、新制高等学校発足以降の学習指導要領を見てみると、1948年告示版で実業「家庭」としてスタートした家庭科は、1956年には教科「家庭」（「家庭一般」他専門科目）となった。1960年告示により「家庭一般」が普通科女子必修（4単位）となり、1970年告示では「家庭一般」がすべての女子必修とされた。これは1978年告示版まで継続される。1966年の中央教育審議会答申により、家庭科の女子のみ必修は「女子の特性に応じた教育的配慮」とされ、性別役割分業に基づく男女別カリキュラムの根拠とされた。その後1989年に女子差別撤廃条約批准のため、家庭科は男女必修科目となった。

家庭科にはすべての女子に必修とされた科目に加えて、専門科目も20科目程度設置され

ている。1960 年、1970 年、1978 年、1989 年告示の学習指導要領における刺繍を含む手芸の扱いについて、必修科目と専門科目の記載内容の比較を行った。結果は表 3 のとおりである。

表 3 高等学校学習指導要領における手芸教育の位置づけ

	必修科目家庭	専門科目家庭（手芸関係）
1960 年告示 普通科女子 必修	第 1 家庭一般 手芸関係の記載 なし	第 2 被服Ⅰ (6) 手芸 ア編み物イ刺しゅうウ染色エその他 ※被服製作、手芸については、地域の状況や履習単位の多少によって適当な製作品を選択し、基礎的な技術を習得させる。(第 3 被服Ⅱも同様)
1970 年告示 すべての女 子必修	第 1 家庭一般 手芸関係の記載 なし	第 2 被服Ⅰ (7) 手芸 アししゅうイ編み物ウ染色エその他の手芸 (第 3 被服Ⅱも同様) ※この科目は、家政科、普通科およびこれを必要とする学科において履修させるものである。 第 13 手芸 1 目標 ししゅう、編み物、染色などの手芸に関する知識と技術を習得させ、服飾手芸や室内装飾についての関心を高め、創造性を養い、情操を豊かにするとともに、手芸を生活に活用する能力と態度を養う。 (2) ししゅう アししゅうの種類と特徴イ材料と用具ウデザインと図案エさし方オ作品の製作 ※この科目は、被服科、服飾デザイン科およびこれを必要とする学科において履修させるものである。
1978 年告示 すべての女 子必修	第 1 家庭一般 手芸関係の記載 なし	第 2 被服 (6) 服飾手芸 アししゅうイ編み物ウ染色エその他の手芸 (第 3 被服Ⅱも同様) 第 10 手芸 2 内容 (1) 手芸の種類と変遷 (2) 手芸と生活 (3) 手芸品の製作
1989 年告示 男女必修	第 1 家庭一般 第 2 生活技術 手芸関係の記載 なし 第 3 生活一般 (5) 衣生活と 被服製作 ウ 手芸	第 6 被服 (7) 服飾手芸 第 17 手芸 (1) 手芸と生活 (2) 手芸の種類と変遷 (3) 手芸品の製作

1960 年、1970 年、1978 年告示の学習指導要領においては、女子必修科目としての家庭科には手芸は見当たらず、選択科目である専門性の高い科目においてのみ、手芸（刺繍を含む）が取り上げられており、大流行したスウェーデン刺繍（第 1 次ブーム）の影響は特

に見られない。1989年になり男女必修となると、必修科目では「生活一般」に手芸がみられるが、この科目を選択した高校は少なく、他の2科目には手芸は見られない。選択科目でも取り扱いが減少している。長い間、高等学校家庭科における衣生活に関する実習は、被服製作が中心だったのである。なお、2018年告示の学習指導要領解説には、「第13節服飾手芸2内容(3)服飾材料」としての各種手芸の技法として具体的に「スウェーデン刺しゅう」が取り上げられている。第2次ブームとのかかわりについては、今後検討を続けたい。

3-4 学校教育におけるスウェーデン刺繍の実践例

以上のとおり、衣生活領域における実習は被服製作が中心であり、手芸は一部の選択科目でしか取り上げられていなかった。大流行したスウェーデン刺繍は、学校現場では取り上げられたとする記録もあるが(図4)、高等学校の家庭科の授業の記録としては残っていない。2008年告示学習指導要領以降の家庭基礎においては、基礎縫い(ボタン付けやまつり縫いなど)さえ求められていないため、手芸教育の実践報告はほとんど見当たらず、スウェーデン刺繍を題材とした報告はまったく見当たらなかった。

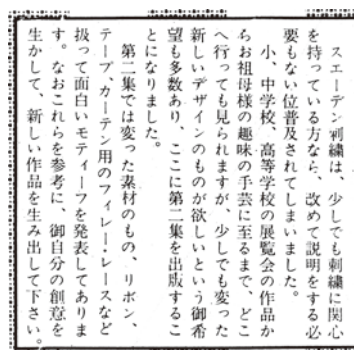


図4 スウェーデン刺繍2(1959)前書きより

しかしながら、多くの学校がホームページにより教育活動の様子を公開するようになり、スウェーデン刺繍に取り組んでいる様子を閲覧することはできたので、その結果を表4に示す(図中のURLについては、すべて11月16日に閲覧確認済みである)。実践数は表5に示すとおりである。特別支援学校(学級)における取り組みが多いが、小・中学校、高等学校でも家庭科の実習題材として取り組まれていることがわかった。ここでは高等学校での様子について取り上げる。

私立M中学高等学校では、高2家庭科でスウェーデン刺繍に取り組んでおり、以下のように報告がなされている。

高校2年生の家庭科では、毎年スウェーデン刺しゅうに挑戦します。製作前に先輩の作品を見て、さらに良いもの作ろうと意気込んで始めたのが7月。夏休みを挟み、完成したのは10月でした。明法祭に展示しようと思っていましたが、どんどん難しいデザインに挑戦したので、時間はかかってしまいました。しかしその分、とても素敵な作品がたくさん出来上がりました。

スウェーデン刺しゅうは、玉結び玉止めが必要ないので、裁縫が苦手だと言っていた生徒も縫い始めると、出来上がっていくきれいな模様を見て自信がもてたようです。家庭科室では、作業

54 國學院大學栃木短期大學紀要

の過程で何度も先生のもとへ作品を持参し、色やデザインのアドバイスを求める生徒の姿が見受けられました。一人ひとりに目が届くのが、少人数教育を特徴とする本学の強みでもあります。生徒は、時間をかけて丁寧に刺しゅうを施した作品を見て、「楽しかった。またやりたい!」、「やりきった達成感がすごい!」と笑顔で感想を話してくれました。

苦手な生徒も簡単に取り組み、デザインも自分で工夫することができかつ豪華な作品ができることで生徒の達成感が得られることがうかがえる。

表4 実践事例

学校名	学年	授業種別	記事の日付	概略など	URL
1 練馬区立関町北小学校	6年	家庭科	2014/2/11	クッション	https://cms.nerima-tyo.ed.jp/weblog/index.php?id=146&date=20140213
2 練馬区立大泉東小学校	6年	家庭科	2017/7/8	卒業アルバム	https://cms.nerima-tyo.ed.jp/weblog/index.php?id=153&type=2&date=20171026&category_id=5904
3 江東区立川南小学校	6年	家庭科	2021/3/20	クッション、「思いを形にして、生活を豊かに」	https://sennan-sho.koto.ed.jp/modules/hp_ipage1/blog_detail.php?page_parent=1703
4 江東区豊洲西小学校	6年	家庭科	2021/11/21	クッション「生活に役立つ物作り」	https://toysunishi-sho.koto.ed.jp/modules/hp_ipage23/blog_detail.php?page_parent=1579
5 豊島区立袋井本町小学校	6年		2022/12/22	各自でデザインした絵柄	https://toshima.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=1310139&type=1&column_id=298391&category_id=5109&date=20230102
6 京都市立西ノ京中学校			2012/1/27	小さな巨匠展	https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=201506&type=7&date=20120224&search_word=%A5%B9%A5%A6%A5%A7%A1%BC%A5%C7%A5%F3%BB%C9%BD%AB&search_option=1
7 知多市立知多中学校	2年	家庭科	2018/11/6	ペンケース	https://chita.schoolweb.ne.jp/2320095/search?keyword=%E3%82%B9%E3%82%A6%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%B3&nendo[0]=all
8 大阪市立東三国中学校	2年	家庭科	2019/8/29	細かい作業に集中してとくんでいました	https://swa.city-osaka.ed.jp/weblog/index.php?id=j642394&type=1&column_id=1126059&category_id=3619&date=20190830
9 練馬区立光が丘第一中学校	3年	家庭科	2021/2/13		https://cms.nerima-tyo.ed.jp/weblog/index.php?id=215&type=1&column_id=220473&category_id=6525
10 世田谷区立芦花中学校			2021/5/27	クッション、ブックカバー、ティッシュケース	https://school.setagaya.ed.jp/weblog/index.php?id=troka&type=1&column_id=553978&category_id=16&date=20210530
11 春日部市立緑中学校	2年	家庭科	2021/6/8	2年生がスウェーデン刺繍に挑戦しています。	https://schit.net/kasukabe/jhmidori/blogs/blog_entries/view/104/9cd949a5c69724dce460e003e1203a16?frame_id=125
12 三重県立久居農林高等学校			2023/1/19	生活デザイン科 リビングコース	http://hisai-norin.jp/course/living/20230119-6183/
13 東海大学付属熊本星翔高等学校		家庭科	2023/9/15	サタミ家庭科	https://www.facebook.com/permalink.php?story_fbid=pfbid0xKE5BaW5Qpoc45Ehqdhsr5A4QnaXNtV5ehU7bWt8btWEq8myKT16toEW4AQI&id=100057399401963
14 ★明法中学・高等学校	2年	家庭科	2023/12/6	7月開始 10月完成、文化祭展示、家庭基礎	https://www.meiho.ed.jp/blog/entry_new/002308.html
15 東筑紫学園高等学校	1年	家庭科	2024/7/3	服飾専攻 1年	https://www.hcg.ed.jp/information/18983/
16 福岡市立特別支援学校博多高等学園	3年	生活技能(家庭生活分野)	2012/10/19	高等学校段階程度知的障害	https://blog.goo.ne.jp/hakata9300/e/7bd7794ecb19db7944e24cceb8e454f7
17 大阪府立住ノ江支援学校			2018/6/11	クッション	https://www.osaka-c.ed.jp/blog/suminoe-s/s/2018/06/11-113411.html
18 神奈川県立座間支援学校	1年	家庭科	2021/2/16		https://www.pen.kanagawa.ed.jp/zama-sh/seikatsu/museum/20210216.html
19 名古屋特別支援学校	高等部	手芸班	2023/12/26		https://nagoya-sh.aichi-c.ed.jp/cms/info/page-428/page-1234.html
20 京都市立北総合支援学校	1年		2024/05/24 2022/06/10	ワークスタディ (織染)	https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=400107&type=7&search_word=%A5%B9%A5%A6%A5%A7%A1%BC%A5%C7%A5%F3%BB%C9%BD%AB&search_option=0
21 国立大学法人北海道教育大学附属特別支援学校		縫工		卒業後も製作	https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_tokushi/pta/ptadousou.html
22 千葉県立柏特別支援学校				分教室縫製コース	https://cms1.chiba-c.ed.jp/kashiwa-sh/bunkyoushitsu/sagyou
23 兵庫県立高等特別支援学校	1年	縫工		刺繍後手縫いで巾着	https://www.hyogo-c.ed.jp/~koto-sn/2life%20(teach)/java.html
24 港区立青山小学校			2018/3/16	あすなろ学級	https://aoyama-es.minato-tyo.ed.jp/plugin/blogs/show/2/15/1423#frame-15
25 所沢市立三ヶ島中学校	5組		2020/7/27		https://mikajima-jh-
26 江戸川区篠崎中学校	8組		2021/2/12	2・3年生の作品は圧巻	https://edogawa.schoolweb.ne.jp/1320059/weblog/878026

27	多摩市立永山小学校			2022/5/9		https://schit.net/tama/esnagayama/blogs/blog_entries/view/70/1567be269f741092fa322f060bf08f60?frame_id=96
28	小平市立花小金井南中学校		家庭科	2022/7/14	特別支援級 7 組	https://www.kodaira.ed.jp/weblog/index.php?id=hanakoganeiminami_j&type=1&column_id=77329&category_id=997&date=20220801
29	荒川区立第二瑞光小学校			2023/3/6	たけのこ教室	https://www.aen.arakawa.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/445/takenoko03.pdf
30	足立区立第一中学校	E組			ADACHI障がい者アート展 2022	https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/59197/syugei-2.pdf

表5 実践事例

学校種	実践数
小学校（普通級）	5
中学校（普通級）	6
高校	4
特別支援学校	8
特別支援級	7

公開されている学校のホームページだけでは限界があるため、スウェーデン刺繍を教材として開発している教材会社へも問い合わせをした。

教材会社によると、2008年に長野県と石川県の学校現場でスウェーデン刺繍がブームであるということが特約店から伝えられたことがきっかけで、スウェーデン刺繍を教材として開発した。「仕上がりがとても繊細で美しいため、一見難しそうに見えますが、実は単純作業の繰り返しで子どもでも簡単に美しい模様を仕上げられるという意外性がとても魅力である」との見解である。取り組んでいる教師から教材会社に寄せられた感想は以下の通りであった。

- ・直線ですすだけでも綺麗な模様になる。基本の図案をアレンジするのも簡単。苦手と言う生徒でも楽しんで取り組めた。
- ・裏面に刺繍の跡が出ないため、仕上がり綺麗で完成度が高く、自分で製作した作品を日常生活で使用するという喜びを体験させてあげられたと思う。
- ・想像以上に集中して取り組んでいた。スウェーデン刺繍の時間だけは静かで、集中力が養われたように思う。（ハマる!!スマホより楽しい!!という生徒の声も…）
- ・スウェーデン刺繍の「針で布をすくう」という動作が、まつり縫いの織り目をすくうという感覚に似ているため、疑似練習になった。

同社では、生徒の達成感が大きい理由として「少ない色数でもグラデーションの美しい模様が表現でき、基本の刺し方の組み合わせで簡単にオリジナルデザインにアレンジすることもできるスウェーデン刺繍は、従来からあるフランス刺繍やクロスステッチよりも簡単にできて、見た目も豪華」であるとしている。さらに教師の感想からも、仕上がりがきれいであるため自分の製作した作品を日常生活で使用できることや、基礎縫い（まつり縫い）の練習にもなることなどが挙げられ、従来の家庭科教育で取り組まれてきた目標も達成できる教材であり、取り組む意義が大きいと考えられる。

4 総合考察

4-1 戦後の家庭生活とスウェーデン刺繍

スウェーデン刺繍は、考案者である久家道子氏がチリ滞在中に布目をすくう刺繍に初めて出会った体験をもとに、1956年に考案されたものである。布の織り目をすくって模様を表現する手法は世界各地で見られるが、専用の道具や布は久家氏が独自に開発したもので、久家氏がものづくりの盛んな国スウェーデンへの思いをこめて命名したものであり、スウェーデン国とは直接の関係はない。特別な道具が不要で、比較的簡単な技法で完成させることができ、立体感があり色使いなどで見栄えもするため、専業主婦が増大した1960～1970年代にこれまでにない手芸の方法として大流行した（第1次ブーム）。戦後の高度経済成長時代の主婦たちは、その住まいを飾り、自分らしい生活を創造するために刺繍を施し、生活における豊かさを享受するとともに家庭における自身の存在感を高めたと考えられる。

4-2 スウェーデン刺繍とウェルビーイング

久家道子氏に師事し、親族でもあり、現代を代表する刺繍作家である五十嵐富美氏は、自身が入院した際にこの刺繍に取り組むことにより、一段一段仕上げていくと病気で気持ちが落ち込みがちであったが前向きになれ、完成に向けて続きがやりたくなることを実感したと述べている。それは、テキスタイルアーティストのヒックス氏に師事していた時、「人は産まれた瞬間からやわらかい布に包まれて育つ。やわらかい布に触れることは、人間にとって癒し効果がある」と学んだことにも起因し、布と糸を使って物を製作することの人の心への効果を語っている。実際五十嵐氏が主宰するワークショップでは男女関係なくあらゆる年代の人が楽しんで取り組んでおり、（スウェーデン刺繍は）色使いは好みや個性に合わせて考えることができ、手先の器用さとは関係なく取り組めるものであり、自

分を表現する手段として多くの人が夢中になって取り組むと五十嵐氏は語っている。第1次ブームでは専業主婦たちが家庭内を装飾し、持ち物や着るものにまで刺繍を施し、家庭生活を豊かにし、自分たちの存在感や家族への思いを形にすることができた。生活を豊かにし、自分を表現し、夢中になって取り組む豊かさを求める人々にとって、柔らかい布に触れながらスウェーデン刺繍に取り組むことは、ウェルビーイングすなわちその人らしい最適な状態を作り出す手段となるのではないだろうか。

4-3 学校における手芸教育とウェルビーイング

2008年告示の学習指導要領以降、高等学校学習指導要領において、必修科目における被服製作の実習については特に言及されていないが、現場の教師は基礎縫い（ボタン付け、まつり縫いなど）を重視する傾向があるように思われる。手芸は必修科目ではなく選択科目に置かれることが多いため、普通教育において積極的に取り組む事例はあまり見られず、スウェーデン刺繍の知名度も現在決して高いとは言えない。

スウェーデン刺繍は、主に特別支援学校（学級）を中心に組み込まれており、技法が簡単であることから生徒の状態に応じて自由にデザインや模様を変え、生徒が夢中になって取り組み、素晴らしい作品を仕上げていることが報告されている。しかし、生徒の内面に与える効果についての報告は不十分である。五十嵐氏はスウェーデン刺繍の学校教育での人気の要因について、自分の好みの色で作れ、実際に使えるものが作れ、リメイクにも応用でき、そして誰かのために作ってあげられること、などを指摘している。裁縫が苦手な生徒も出来上がっていく作品を見て自信が持てるようになり、達成感を得られるスウェーデン刺繍は、生徒のウェルビーイングの向上に貢献することが推察される。高等学校の普通科の授業で、時間数が少ない中でも生徒が自由にデザインし、自ら進んで取り組み、達成感を得られるものづくりのために授業開発が求められる。

5 まとめと今後の課題

家庭科は時代の要請にこたえて学習内容が変遷してきたが、2016年中教審答申により「伝統や文化に関する教育の充実」が示されて以来、生活文化に関する教育が注目されている。2018年告示の高等学校学習指導要領では、高等学校家庭科の教育内容について、生活の営みに係る見方・考え方として4つの視点が示されており、その1つに「生活文化の継承と創造」が挙げられている。

衣食住にかかわる生活文化には日々の生活を支え、豊かな生活を創造するために継承さ

れてきたものが数多くある。高度経済成長期の日本で、専業主婦を中心にその生活を豊かにしてきたスウェーデン刺繍もその一つであることを本論で実証した。手芸は近年学校教育では取り上げられる機会が減少しているが、その効果についてより詳しい研究が進められるべきであろう。クロスステッチや刺し子など、これまでに学校教育で取り組まれている他の手芸の効果についても、比較・検討する必要がある。

特別支援教育では手芸は重視されており、スウェーデン刺繍の実践報告も多い。特別支援教育は「障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」ことを目的とするが、先行研究によると「スウェーデン刺繍は、布目の粗さや組み合わせの模様でレベル調整しやすく、障がいの軽重を考慮してその子どもに合った題材に調整しやすいため人気が高い」（大隅、2011）と特別支援学校での取り組みやすさが示されている。このことは、生徒の個性に応じて取り組みやすく、同時に教師にとっても指導がしやすいことを示唆しているのではないだろうか。

高校生は、家庭科の学びを「ふだん」「今」「将来」の「生活や社会に出て役に立つ」「生きた勉強ができる」（大学家庭科教育研究会、2024）と評価している。高校生がスウェーデン刺繍に取り組むことで、その内面がどの様に変容するか注目し、スウェーデン刺繍が彼らのウェルビーイングの向上に寄与する教材であるかを検討することが今後の課題である。

謝辞

本論文の執筆にあたり、多大なご協力をいただいた刺繍作家五十嵐富美様、株式会社文溪堂様、同社営業部鈴木博美様、株式会社日本ヴォーグ社様、オリムパス製絲株式会社様に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 安藤美紀子. (1988). 編み物と創造性についての調査. 日本家庭科教育学会誌 31 (3) 83 - 90.
- 大学家庭科教育研究会編. (2024). ウェルビーイングの実現の主体をはぐくむ家庭科教育の理論. 東京: ドメス出版
- 堀内かおる, 武井洋子, 田部井恵美子. (1988). 被服製作及び手芸 学習要求からの考察. 東京学芸大学 紀要, 6 (40) . 127 - 140
- Katherine Kennedy . (2018) . Inspiring Afghans for Swedish Weaving,. USA : Annie's needlework.
- Katherine Kennedy. (2024). SWEDISH WEAVING PATTERN Directory. USA : SEARCH PRESS.
- 久家道子, 南條悦子. (1957). スウェーデン刺繍. 東京: 婦人界出版社.
- 久家道子. (1973). たのしい手芸 37 久家道子スウェーデン刺しゅう. 東京: 婦人画報社.

- 文部科学省. (2018). 高等学校学習指導要領解説 家庭編.
- 文部省. (1948). 学習指導要領 家庭編（高等学校用）（試案）
- 文部省. (1956). 高等学校指導要領一般編
- 文部省. (1960). 高等学校学習指導要領（文部省告示）
- 文部省. (1970). 高等学校学習指導要領
- 文部省. (1978). 高等学校学習指導要領
- 日本ヴォーグ社編集. (2013). 新装版 世界手芸紀行. 東京：日本ヴォーグ社.
- 大隅順子. (2011). 特別支援学校中学部における家庭科教育の課題 過去 15 年間を振り返って. 同志社女子大学生活科学 45. 73 - 77.
- 尾崎千代子 他. (1959). 手芸教室 29 スエーデン詩集 2. 東京：雄鶏社.
- 佐藤育代, 石谷圭子, 福田公子. (1986). 養護学校高等部における家庭科教育（第2報）日本家庭科教育学会誌 29 (1)
- 生活やものづくりの学びネットワークパンフレット作製委員会. (2019). 生活やものづくりの学びネットワークパンフレット. 東京：生活やものづくりの学びネットワーク事務局.
- 杉村桃子, 綿引伴子. (2004). 家庭科教育関係雑誌における衣生活教育実践の検討. 日本家庭科教育学会大会・例会・セミナー研究発表要旨集 47, (0), 36-36.
- 鈴木明子. (2015). 家庭科における布を用いた製作の教育的意義の再考－製作学習への意識とフィンランドのクラフト教育からみた課題. 日本家政学会誌, 66 (11). 588-593
- 東京新聞. (1992). 男性も楽しめる手芸を. 1992 年 9 月 5 日（土）
- Trice Boerens. (2014). Learn Huck Embroidery on Monk's Cloth. USA：Annie's needlework.
- 渡瀬典子. (2023). 小学校家庭科, 中学校技術・家庭科における布を用いた製作題材の変遷. 東京学芸大学紀要総合教育科学系 74, 357 - 370.
- 山中大子, 川端博子. (2024). 高等学校家庭科の製作実習の現状と意義. 日本家庭科教育学会 2024 年度第 67 回大会研究発表要旨集. 40.